

北東アジアの友好交流をすすめる、日中友好協会大阪府連、日本コリア協会・大阪と、韓国に残る秀吉の朝鮮侵攻の砦となった「倭城」を訪ねる旅を続けてきた大阪私学退職の会の3者が、引き続き「北東アジア」を知ろうと共同で「北東アジアの平和のために過去を学び未来を考える」シリーズを取組んでいます。

シリーズは3回目となる今回は、韓国、北朝鮮では白頭山と呼ばれる朝鮮民族の聖山とされる「長白山登山」を含め、中・朝・露国境を巡る旅でした。

以下は、今回の旅の世話役として奮闘いただいた日中友好協会大阪府連の平松さんからのレポートです。

2016年・北東アジア平和と友好の旅

北東アジアの平和のために過去を学び未来を考える

*企画・実施:

日本中国友好協会大阪府連合会、日本コリア協会・大阪、大阪私学退職の会

*協力: JU 観光友の会

*旅程: 8月2日(火)~8月6日(土)5日間

現在世界での火種はそれなりにあるが、核問題を抱えているのは唯一この地域である、中・朝・露国境を巡る旅にでかけた。

中国側(延辺朝鮮族自治州)から3カ国が見えるという”防川”に行った、タワーに登り緑豊かな、ゆったりとして川の流れの中、露と北朝鮮を結ぶ長い鉄橋、その先には北朝鮮の駅も見える、はるかかなたにはぼんやりと日本海も、海に囲まれ国境意識の薄い私たちにすれば、まか不思議な世界である。

もうひとつ、国境の街囃子へ、中国側は人で賑わっているが、北朝鮮側は人は見えないといった方がいいであろう、橋(友誼大橋)でつながり、韓国の人たちは現在この橋には入れない、日本人はどうか、何とか現地ガイド(張さん)のはからいで、国境の所まで全員で行った、その横を貨物トラックが往来している、経済制裁と聞いているが、一方向通行であるがひっきりなしに、空のトラックが北朝鮮に、荷を積んだトラックが中国にと見えた。

橋の下の囃子江もイカダ的な船で、夏であるのに以外に流れが早く、濁っていた、手の届く所に北朝鮮の地が、もっと緊張しているのかとおもいきや、中国側では普段どうりの感じであった。

戦前は日本が侵略・満州国と宣言し、ソ連との国境紛争があり、地元では有名な張鼓峰事件、ノモンハン事件の1年前1938年、どちらもソ連の近

代兵器の前に敗北、しかしそれは当時秘密裏に置かれ、戦後知られるようになった。最近、安倍政権が選挙では争点隠しを、そして終われば戦争法の実施、共謀罪、緊急事態法と、前には特定秘密保護法、何か当時と似かよってきているのではないかと、思わざるをえなかった。

続いて龍井に来た、当時は間島（かんとう）と言い、抵抗運動が激しく、パルチザン闘争も盛んであったらしく間島領事館を取締りのために設置、現在も そのままの建物があり、鍵を開けていただき見学をした。

映像で当時のこと説明をしており、地下では取締のため、凄惨なことが行われていた、当時の国内も平和を訴えただけで拷問・虐殺である。

龍井のもうひとつの目的は、韓国の国民的詩人”尹東柱”の生家、そして大成中学と同じくしてある記念館である、戦前・日本の大学に留学中に治安維持法により逮捕され、北九州において獄死されている方である。韓国からの見学者が沢山あるらしく、最初に来た時は時間前に締められたいた。日本でもそうであるが、正に戦争になれば知的・文化的財産も少なくなき犠牲になっている、この尊い犠牲を教訓に現在ある平和を守っていかなくてはならない。

今回の目的のひとつは長白山登山である、聖地として、カルデラ湖になっており、松花江、豆満江、鴨緑江につながっているらしい。8月は一番季節的によく人も多い、7時前に出発、バスに乗るべく現地に着くと人・人・人である、何か上高地にでも来たのかと、そうではない、そんな比ではない、途中長白瀑布（滝）を見に行ったこともあり、天池（頂上）に着いたのが4時であった。暑さも和らぐ時間に、空も少し陰りが、しかし天池には列をなしていた、2600mから2100mのカルデラを観ることは出来た、ブルーとはいかなかったが、後に聞けば3万人であったらしく、午後はストップをかけたらしい。

日中友好協会としては地元人民政府表敬訪問である、地元ガイド張さん、一度も来たことはないです、迎えは窓口になっていただいた、対外協会の池美英さん、延辺朝鮮族自治州外事弁公室副主任・池延隼さんと男性の3人。30人すべてを受け入れていただき、いつもとは違いフレンドリーな形となり、1Fを案内していただき、旅の雰囲気も少し違った形になりました。続いてあわただしい中、地元延辺大学日本語科の生徒との交流です、あらかじめ4班に分け、2～3名の学生が付いて学舎を案内していただき、後レストランに場所を移し談笑しました。

日本へのあこがれは強く、留学・就職・結婚と希望が出されていました、

地元での大きな企業はタバコとビール会社しかなく、後は自治州を出ていまざるを得ないとのこと、ガイドさんも6・7・8月以外は上海等に行く、また韓国系相手の仕事は朝鮮族が行なっていくという、力強い言葉も聞きました。ホテル・レストラン等で北朝鮮の方々が甲斐甲斐しく働いておられる姿を目にしました、歌も歌われ、笑顔を絶やさず、すべてが整っている感じで、報道から知るイメージとは違い、いついつまでもあの笑顔が消えないようにと思いました。